

八田村文化財調査報告書 第6集

*Yamanashiken Nakakomagun Hattamura*

山梨県中巨摩郡八田村

## 平成 13・14 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

2003

八田村教育委員会

*Yamanashiken Nakakomagun Hattamura*  
山梨県中巨摩郡八田村

## 平成 13・14 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

2003

八田村教育委員会

# 序 文

八田村は山梨県の甲府盆地西部に位置しております。村の東側には釜無川が南流し、北側には御勒使川が流れ釜無川に注いでいます。二つの清流が合流する場所に村は発展してきました。

御勒使川は古くから暴れ川として有名で、洪水になると釜無川の洪水をも引きおこし、村に多人な被害をもたらしてきました。御勒使川・釜無川と人々とによって八田村の歴史は織りなされてきたといつても言いでしょう。こうした暴れ川の作りだす扇状地や沖積低地には、いにしえには人は住まず、仮に住んだとしても、その痕跡は既に流失していると考えられてきました。しかし、「大塚遺跡」の発見や中部横断自動車道建設工事に伴う発掘調査、また平成11年度に行われた村内遺跡詳細分布調査によって八田村にも多くの遺跡が眠っていることが明らかとなりました。

こうして新たに発見された埋蔵文化財を保護するため、八田村教育委員会では平成12年度より国、県から補助金をいただき、開発前に遺構の有無や深さ、密度等を正確に把握する試掘調査を行ってまいりました。本書は平成13・14年度に行った試掘調査の概要報告書です。

地下に眠る遺跡は、郷土の歴史を伝える先人の遺産であり、村の文化的発展の基礎となるものです。埋蔵文化財を保護し、郷土の歴史を子供たちに伝えていくことが私たちの重要な務めなのではないでしょうか。村民の皆様が八田村の埋蔵文化財を理解し、埋蔵文化財の保護、普及に本書が利用されることを心より願ってやみません。

末筆ではありますが、調査に対しご指導ご協力をいただいた関係者の方々や村民の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成15年2月

八田村教育委員会

教育長 内田一雄

## 例　　言

1. 本書は、山梨県中巨摩郡八田村において平成13年度および14年度に実施された埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
2. 試掘調査および整理作業は、文化庁・山梨県より補助金を受け、八田村教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆および写真撮影は斎藤秀樹が担当し、編集は小林素子、斎藤が行った。
4. 本書の図版は、大久保久美、小林、穂坂美佐子が作成した。
5. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、八田村教育委員会に保管してある。
6. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。(敬称略・五十音順)

間間俊明、大島正之、小林健二、田中大輔、保坂康夫、森原明廣、八巻與志夫、山下孝司

山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

## 目 次

序 文

例 言

目 次

第Ⅰ章 埋蔵文化財概要	1
1. 平成 13・14 年度調査概要	1
2. 文化財保護体制のあゆみと今後の課題	1
第Ⅱ章 平成 13 年度遺跡試掘調査概要	4
1. 御勅使川堤防址群 No.45-2	4
2. 野牛島・石橋遺跡	4
3. 野牛島・立石下遺跡	5
4. 六科・村北遺跡第 2 地点	6
5. 六科・北新田遺跡 J マート地点	11
第Ⅲ章 平成 14 年度遺跡試掘調査概要	13
1. 前御勅使川堤防址群 No.45-2	13
2. 特別養護老人ホーム	13
3. 野牛島・石橋遺跡	14
4. 榎原・南原遺跡	14
5. 野牛島・大塚遺跡第 2 地点	15
6. 六科・御崎遺跡	18
7. 舞台遺跡	18

## 挿 図 目 次

第 1 図 試掘調査地点位置図	第 13 図 六科・北新田遺跡 J マート地点トレンチ配置図
第 2 図 御勅使川堤防址群 No.45-2 位置図	第 14 図 前御勅使川堤防址群 No.45-2 位置図
第 3 図 野牛島・石橋遺跡位置図	第 15 図 特別養護老人ホーム位置図
第 4 図 野牛島・立石下遺跡位置図	第 16 図 野牛島・石橋遺跡位置図
第 5 図 野牛島・立石下遺跡トレンチ配置図	第 17 図 榎原・南原遺跡位置図
第 6 図 第 2 トレンチ平・断面図	第 18 図 野牛島・大塚遺跡第 2 地点位置図
第 7 図 六科・村北遺跡第 2 地点位置図	第 19 図 野牛島・大塚遺跡第 2 地点調査区位置図
第 8 図 六科・村北遺跡第 2 地点トレンチ配置図	第 20 図 野牛島・大塚遺跡第 2 地点全体図
第 9 図 1 次調査第 1・3 トレンチ平・断面図	第 21 図 六科・御崎遺跡位置図
第 10 図 2 次調査第 1 トレンチ平・断面図	第 22 図 舞台遺跡位置図
第 11 図 2 次調査第 4・5・6・7 トレンチ平・断面図	第 23 図 トレンチ配置図および第 1・2・3 トレンチ平・断面図
第 12 図 六科・北新田遺跡 J マート地点位置図	

# 第Ⅰ章 埋蔵文化財概要

## 1. 平成 13・14 年度調査概要

八田村の地形は村西側が御勒使川扇状地、東側が沖積低地に大きく分かれる。遺跡は主に御勒使川扇状地上に分布しているため、試掘調査も御勒使川扇状地上での調査事例が多い。全 12 件中、扇状地上での調査事例が 9 件で、その他扇状地と沖積低地の境界で 2 件、残り 1 件が沖積低地上である。また、土木工事自体の開発が扇状地上に多い傾向にある。

八田村内における土木開発工事を開発規模に注目して見てみると、小規模開発である個人住宅や集合住宅については野牛島地区と六科地区での開発が多い。六科地区では六科集落を中心西側、北西、東側への宅地化が進む一方、野牛島地区では集落から西側の開発が増加している。大規模開発に目を転じると民間施設 1 件、公共施設 3 件を数える。六科 1 件、野牛島 1 件、徳永 1 件で、特定地域への開発の集中は見られない。ただ注目すべき地域は建設中の中部横断自動車道および甲西バイパス周辺地域である。平成 13、14 年度、甲西バイパスに伴う開発を原因とする試掘調査を合計 2 件実施した。本年度（平成 14 年）に甲西バイパスへのアクセス道路である村道 161 号線の整備が完了し、後に甲西バイパスが完成すれば甲西バイパスおよびアクセス道路沿いの開発が増加する可能性がある。野牛島地区的道路周辺地域は八田村の中でも遺跡が集中する地域であり、予想される開発と文化財保護との調整が必要となると予想される。

## 2. 文化財保護体制のあゆみと今後の課題

八田村は近年まで、遺跡が少ない地域と考えられてきた。実際に、平成 10 年まで村で確認していた遺跡は赤山遺跡と舞台遺跡の 2 遺跡だけであった。しかし、大規模開発に伴い山梨県埋蔵文化財センターによって複数の遺跡が発見、調査が行われるにおよび、早急に村内全域の埋蔵文化財を把握し保護する必要性が生じた。そのため八田村教育委員会では平成 11 年度に国庫補助事業として村内遺跡詳細分布調査を行い、47 カ所の遺跡を確認し、埋蔵文化財包蔵地地図を整備した。埋蔵文化財包蔵地が把握されたことによって、八田村における埋蔵文化財行政の中で基礎的な保護体制が一応整ったと言える。しかし、それと同時に、以下に示すような課題も抱えることになった。

- ①周知の埋蔵文化財包蔵地の充実と周知化
- ②開発事業に対する早期の事業把握および事業計画と埋蔵文化財の取り扱いとの適切な調整
- ③②の結果生じる埋蔵文化財保護の観点から行う発掘調査体制の整備

それぞれの課題について詳述する紙面のゆとりはないが、これらの課題の基礎となっているのは①である。特に八田村の主な地形は、地上での遺物採取が困難な沖積低地と御勒使川扇状地であるため、埋蔵文化財を把握しづらいという地形的な制約がある。②の問題である開発との調整を行う上でも、試掘・確認調査等を行い、各埋蔵文化財の広がり、性格、密度、層位的な重なりをできる限り把握することに努める必要がある。また、現在埋蔵文化財行政に求められている「客觀化」や「標準化」の観点からも、埋蔵文化財包蔵地の把握と住民への周知化は今後さらには行政が進めるべき重要な責務のひとつであろう。

第1表 評価調査一覧

## 【平成13年度】

No.	通称名	面積(他)	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )	面積(他)	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )
1	徳野他11号防止群N <sup>b</sup> 45-2	六科 632 他	873	28	3	なし		
2	野牛島・石燃道路	野牛島 2771	127	6	1	(燃防)		
3	野牛島・立て下邊跡	野牛島 2420-14	335	18	2	溝状遺構		
4	六科・村北遺跡第2地点 (1次調査)	六科 83 他	2,877	42	4	ビット・堅穴状遺構	2001年6月7日	集合住宅
4	六科・村北遺跡第2地点 (2次調査)	六科 83 他	2,877	44	8	ビット・堅穴状遺構	2001年7月12,13日	分譲住宅
5	六科・北新田遺跡 Jマーク地点	六科 517 他	17,463	752	19	ビット・溝状遺構	2002年1月25日～3月29日	大型店铺施設

## 【平成14年度】

No.	通称名	面積(他)	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )	面積(他)	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )	測量面積 (m <sup>2</sup> )
1	前進動車11号防止群N <sup>b</sup> 45-2	六科 616	1,527	24	3	なし		
2	特別養護老人小一ム	徳永 436-1 他	4,671	157	7	なし		
3	野牛島・石燃道路	野牛島 2772-1 他	5,500	58	3	なし		
4	根原・南原遺跡	根原 496-11	358	15	2	なし		
5	野牛島・大家遺跡 第2地点	野牛島 2695-1 他	248	140	1	ビット・墓壙・溝状かわらけ 遺構	2002年10月21日～11月8日	村落改良工事
6	六科・御崎遺跡	六科 162	64	7	1	なし	他	老人ホーム
7	舞台遺跡	徳永 1956-1	506	225	3	ビット・溝状遺構	2003年1月30日	温泉施設
								携帯電話用鉄塔
								確認調査

第1図 試掘調査地点位置図 (1/25,000)



■ 平成13年度試掘調査地点

● 平成14年度試掘調査地点

## 第Ⅱ章 平成13年度遺跡試掘調査概要

### 1. 御勅使川堤防址群 No.45-2

調査地 八田村六科 652 他

調査原因 集合住宅建設工事

調査期間 平成13年5月28日

対象面積 873 m<sup>2</sup>

#### 調査概要

調査区は御勅使川扇状地上に位置し、北側25mの地点には将棋頭から続く御勅使川右岸を守る旧堤防が見られる。

合計3本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力で精査、確認する試掘調査を行った。調査の結果、第1トレンチで小石を多く含む硬くしまった褐色灰色土層が発見された。堤防の基底部である可能性があるが、今回の調査では積み石等の堤防址を積極的に指示する資料は得られなかった。より古い堤防は現在道路となっている下に埋没している可能性がある。

### 2. 野牛島・石橋遺跡

調査地 八田村野牛島 2771

調査原因 仮設水路建設工事

調査期間 平成13年5月30日

対象面積 127 m<sup>2</sup>

#### 調査概要

調査区は御勅使川扇状地と沖積低地境界上に位置する。御勅使川扇状地から続く小丘状となっており、果樹栽培が行われている一方、西、北、東側は一段低く、水田が営まれている。

小丘の斜面に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力で精査し断面を観察する試掘調査を行った。調査の結果、斜面にそって小石がまとまって出土したが、積極的に堤防状の遺構として位置づける証拠は得られなかった。他の遺構や遺物も検出されていない。このように調査結果からみると遺構としての可能性は低いが、地形上の特徴があり、この地域の成り立ちを考察する上で重要な地点と考えられる。



第2図 御勅使川堤防址群 No.45-2 位置図



第3図 野牛島・石橋遺跡位置図

### 3. 野牛島・立石下遺跡

調査地 八田村野牛島 2420-14

調査原因 集合住宅建設工事

調査期間 平成 13 年 6 月 7 日

対象面積 335 m<sup>2</sup>

#### 調査概要

調査区は御勅使川扇状地上に立地する。北西には 9 世紀前半の集落跡である立石下遺跡が位置し、南へ約 200m の地点は、県道竜王芦安線つまり前御勅使川の旧流路にある。

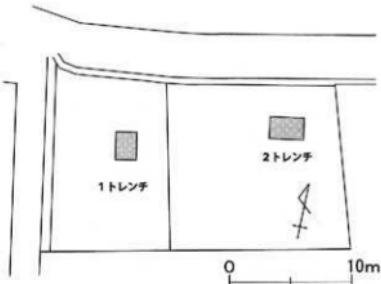
工事区域内に 2.3 × 1.7m, 1.8 × 2.8m の 2 本のトレンチを設定し、重機による掘削後人力で精査、遺構を確認する試掘調査を行った。

調査の結果、第 2 トレンチで地表から約 1.7m の深さから溝状の遺構が発見された。確認面での幅は約 70cm で、北西から南東へ延びている。覆土は青灰色の砂礫である。遺物は出土していない。自然の流路の可能性もあるが、断面の形状等から遺構と判断した。また、第 1、第 2 トレンチとともに表土の下に厚く砂層と砂礫層が互層状に堆積しており、調査区域が前御勅使川の影響を強く受けた地域であることが判明した。

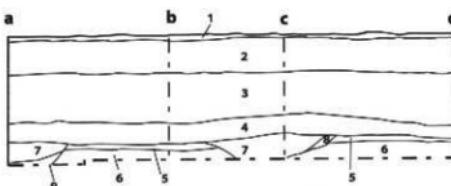
集合住宅建設の最大掘削深度は 70cm で、遺構に影響が及ばないため、現状保存とした。



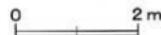
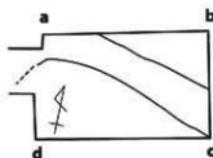
第 4 図 野牛島・立石下遺跡位置図



第 5 図 野牛島・立石下遺跡トレンチ配置図  
(1/400)



- 土層説明
- 1. 黒色土 覆土。
  - 2. 桂色土 砂礫層。
  - 3. 青灰色土 砂礫層。
  - 4. 桂色土 砂層。礫を含む。
  - 5. 桂色土 砂層。
  - 6. 灰色土 青褐色土（酸化鉄）を含む。粘土質。
  - 7. 青灰色土 砂礫層。溝状遺構覆土。
  - 8. 青灰色土 7 層に褐色土が混入。溝状遺構覆土。
  - 9. 灰色土 赤褐色土（酸化鉄）を多く含む。



第 6 図 第 2 トレンチ平・断面図 (1/80)

#### 4. 六科・村北遺跡第2地点

調査地 八田村六科 83他

調査原因 分譲住宅建設工事

調査期間 平成13年7月12,13日（1次調査）

平成13年7月31日～8月2日（2次調査）

対象面積 2,877 m<sup>2</sup>

##### 調査概要

試掘調査は2回に分けて行った。1次調査は分譲住宅の道路計画部分、2次調査は住宅の浄化槽部分を対象として行った。以下1次と2次にわけて調査結果を報告する。

##### (1) 1次調査

道路計画部分に合計4本のトレンチを設定し、重機で掘削後、人力によって精査し試掘調査を行った。調査の結果、第1・3・4トレンチで地表から約60cmの深さから土坑、溝状遺構、竪穴状遺構が検出された。当初の建設計画では部分的に30cmの掘削が行われる予定であり、遺構に影響が及ぶ可能性が考えられた。そのため設計変更を行い、盛土を厚くして遺跡を保護する措置をとった。

##### 1次調査検出遺構

第1トレント・・・土坑9基、溝状遺構1条

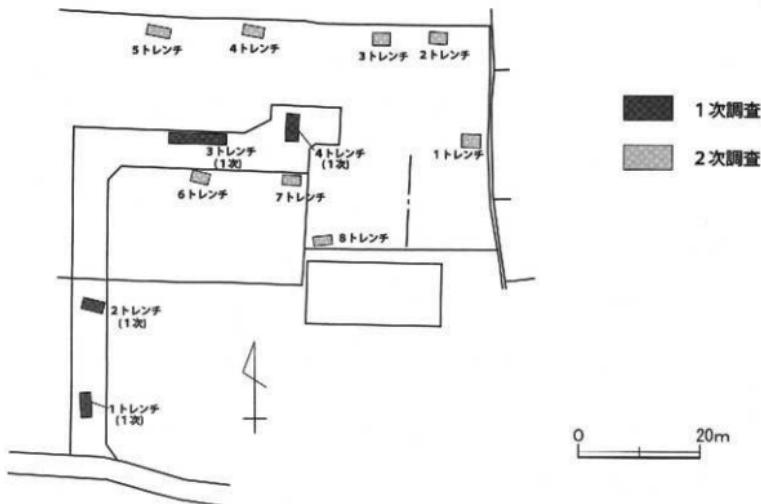
第2トレント・・・遺構なし

第3トレント・・・土坑5基、竪穴状遺構1条

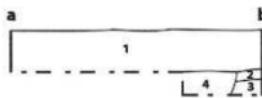
第4トレント・・・土坑1基



第7図 六科・村北遺跡第2地点位置図

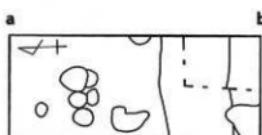


第8図 六科・村北遺跡第2地点トレント配置図 (1/800)



土層説明

1. 暗褐色土 表土。礫、砂を含む。
2. 褐色土 地山。粘性普通。しまりあり。やや砂質。
3. 明褐色土 粘性ややあり。しまりあり。暗褐色土粒を含む。
4. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。砂、小石を含む。暗褐色土粒を多く含む。



第1トレンチ平・断面図

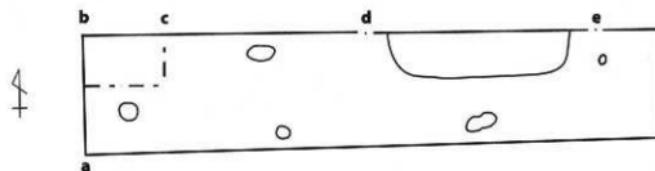
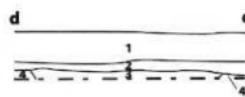


土層説明

1. 黄色土 表土。
2. 黄色土 表土。小石を含む。
3. 暗褐色土 明褐色土を少量含む。
4. 明褐色土 地山。暗褐色土を少量含む。

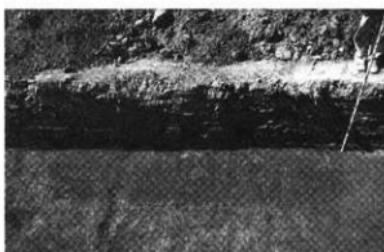
土層説明

1. 暗褐色土 表土。
2. 黄色土 表土。
3. 暗褐色土 粘性普通。しまりややあり。やや砂質。透構の覆土。
4. 黄色土



第3トレンチ平・断面図

第9図 1次調査第1・3トレンチ平・断面図 (1/80)



1次調査第3トレンチ縦穴状造構（南から）



1次調査第3トレンチ全景（東から）

## (2) 2次調査

宅地分譲部分の浄化槽予定地に合計8本のトレンチを設定し調査を行った。調査の結果第1・4・5・6・7トレンチから上坑や堅穴状遺構が発見された。

### 第1トレンチ

堅穴状遺構1基を検出。トレンチ外に遺構が延びるため形状は不明である。遺構の南東隅は角がやや丸みを帯びて直角に曲がっており、円柱矩形の形状をとる可能性がある。東西の長さは同様に不明だが、南北の長さはトレンチ北壁の西側で地山が現れているため約1mとわかる。深さは約1.2mである。遺物は検出されなかった。

### 第4トレンチ

直径30cm、深さ約20cmの土坑が2基並んで発見された。

### 第5トレンチ

土坑3基を検出。トレンチ南東の土坑は直径25cm、深さ約12cmを測る。北壁際の土坑はいずれも浅く、深さ約8cmである。

### 第6トレンチ

堅穴状遺構1基を検出した。トレンチ外に続くため遺構の形状、規模は不明である。トレンチ南壁では地山が確認されており、遺構の南東隅はやや丸く直角に曲がっている。第1トレンチの堅穴状遺構と似た形状の可能性がある。この遺構で特筆すべきは、直径30cm以上の比較的平らな石が4個重なって検出された点である。最も深い位置にある石はエレベーションラインにのっていないが、点線で高さを図示してある。

### 第7トレンチ

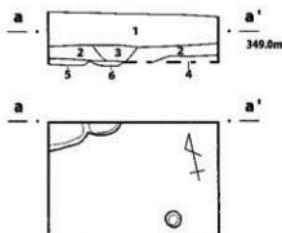
北壁際に土坑1基を検出。深さ約11cmを測る。

## まとめ

本調査地の西に隣接して六科・村北遺跡（以下村北遺跡と呼ぶ）が立地している。六科・村北遺跡の調査では、矩形の堅穴状遺構や墓壙、土坑、柱穴列、掘立柱建物が発見されている。このように本遺跡と六科・村北遺跡は遺構の内容も似ており、ほぼ同様な堆積状況から推測しても同一遺跡であると考えてよいだろう。両遺跡とも遺物がほとんど出土していないため時期は確定はできないが、墓壙の形状から中世の可能性がある。



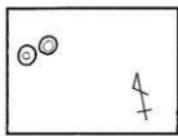
第10図 2次調査第1トレンチ平・断面図 (1/80)



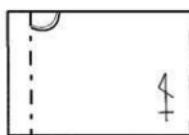
土層説明

1. 褐色土 表土。小石を多く含む。
2. 暗褐色土
3. 明褐色土 明褐色土をやや多く含む。
4. 明褐色土
5. 暗褐色土 透構層土。明褐色土をふつうに含む。
6. 暗褐色土 透構層土。

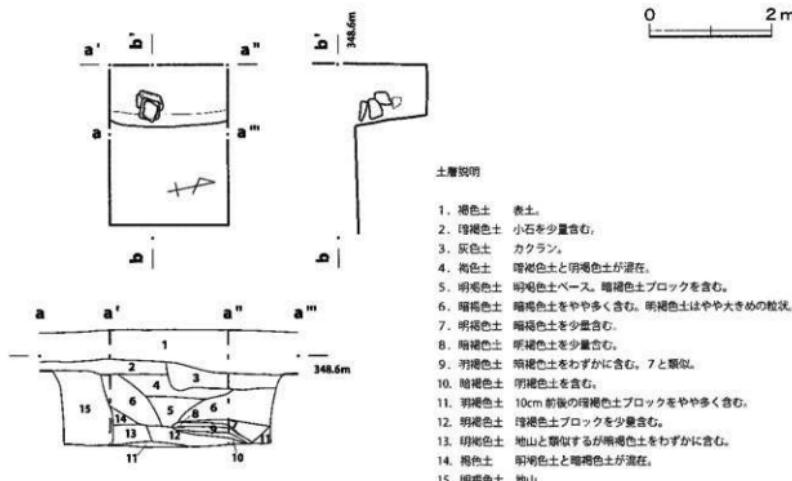
第5トレンチ平・断面図



第4トレンチ平面図



第7トレンチ平面図

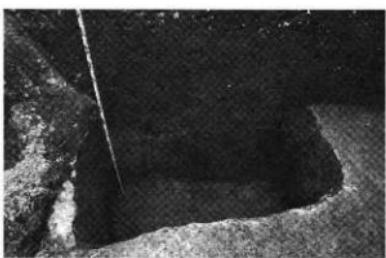


第6トレンチ平・断面図およびエレベーション図

第11図 2次調査第4・5・6・7トレンチ平・断面図 (1/80)



2次調査第1トレンチ（東から）



2次調査第1トレンチセクション（南から）



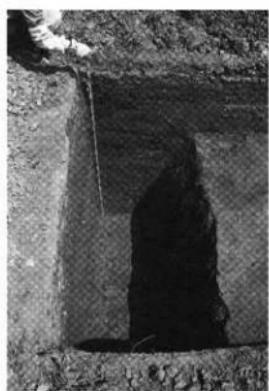
2次調査第6トレンチ石出土状況（南から）



2次調査第6トレンチ石出土状況（北から）



2次調査第6トレンチ石出土状況（上から）



2次調査第6トレンチ石完掘（南から）

## 5. 六科・北新田遺跡 Jマート地点

調査地 八田村六科 517 他

調査原因 大型店舗拡張工事

調査期間 平成 14 年 1 月 25 日～3 月 29 日

対象面積 17,463 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査区は御動使川扇状地上に位置する。現在の御動使川は調査区北端から北へ約 220 m の地点を東流しているが、明治時代まではより南に広がっており、調査区北端から北へ約 70 m の地点に旧堤防がある。

工事区域内に合計 19 本のトレンチを設定し、重機で表土を掘削後、人力で精査し遺構を確認した。その結果、溝状遺構 5 条、不整形土坑、御動使川の旧流路跡が発見された。不整形土坑は第 14・18 トレンチで多数確認されたが、木の根によるカクランである可能性が強い。また遺物も出土しておらず、遺構の密度も極めて低いため、本件は試掘調査時で記録保存を行うこととした。遺構や流路跡のより詳細な記録は、別途試掘調査報告書を作成する予定である。以下溝状遺構および流路跡の概要を報告する。

### 溝状遺構

#### 1号溝

第 7 トレンチで検出した。幅 30cm 前後、深さ 10cm を測る。南東から北西へ延びている。

#### 2号溝

第 7 トレンチで検出した。幅 40cm 前後を測る。東西方向へ延びている。

#### 3号溝

第 10 トレンチで検出した。幅 50cm 前後を測る。南西から北東へ延びている。

#### 4号溝

第 15 トレンチで検出した。幅 50cm 前後、深さ 35cm を測る。南西から北東へ延びている。

#### 5号溝

第 17 トレンチで検出した。幅 90cm 前後、深さ 15cm を測る。南西から北東へ延びている。

### 御動使川流路跡

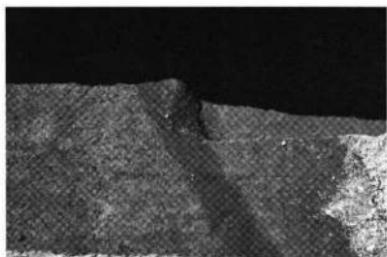
工事区域内の北、中央、南に 3 方所、西から東へ流れる旧流路を確認した。流路間に明褐色土を基盤とした粘土層が残されており、微高地であったことがわかる。



第 12 図 六科・北新田遺跡  
Jマート地点位置図



第 13 図 六科・北新田遺跡 Jマート地点トレンチ配置図 (1/3,000)



第10 トレンチ3号溝（東から）



第15 トレンチ4号溝（東から）



第14 トレンチ近景（北から）



第7 トレンチ1号溝（北から）



第7 トレンチ旧流路（東から）

### 第三章 平成14年度遺跡試掘調査概要

#### 1. 前御勅使川堤防址群 No.45-2

調査地 八田村六科 616

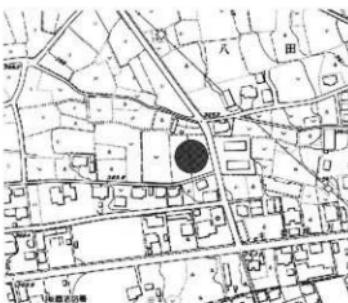
調査原因 集合住宅建設工事

調査期間 平成14年4月5日

対象面積 1,527 m<sup>2</sup>

##### 調査概要

調査区は御勅使川の旧流路であった県道竜王芦安線から約80m北の地点に位置する。建設工事区域に隣接する東西に走る道路が、前御勅使川の左岸堤防である可能性があるため、道路際にトレーンチを1本設定し、またその他の遺構の検出も念頭においてさらに2本のトレーンチを設定し試掘調査を行った。調査の結果、表土である水田層の下は砂礫層が続き、堤防址やその他の遺構、遺物は検出されなかった。堤防についてでは、工事区域内の部分が既に削平されているか、隣接した道路が旧堤防でない可能性が考えられる。なお、工事区域に隣接した道路より南側の道路は、旧地籍図や古地図により堤防であることが確認されている。



第14図 前御勅使川堤防址群  
No.45-2位置図

#### 2. 特別養護老人ホーム

調査地 八田村徳永 436-1 他

調査原因 老人ホーム建設工事

調査期間 平成14年4月8日～11日

対象面積 4,671 m<sup>2</sup>

##### 調査概要

調査区は沖積低地上に位置し、周辺では水田耕作や果樹栽培が行われている。周囲では堤防址を除き顕著な遺跡が確認されていないが、特別養護老人ホーム建設という大規模開発であるため、試掘調査を行った。工事区域全域にわたってトレーンチを7本設定し、合計約157m<sup>2</sup>を調査した。調査の結果、現在の表土にあたる水田層の下は砂礫層が続く状況が全てのトレーンチに共通しており、遺構、遺物は検出されなかった。



第15図 特別養護老人ホーム位置図

### 3. 野牛島・石橋遺跡

調査地 八田村野牛島 2772-1 他  
調査原因 八田村温泉施設建設工事  
調査期間 平成 14 年 4 月 15 日～4 月 18 日  
対象面積 1,500 m<sup>2</sup>  
調査概要

調査区は御勅使川扇状地と沖積低地のちょうど境界付近に位置する。調査区は、南の御勅使川扇状地より一段低く、西から東側にゆるやかに傾斜する地形になっており、水田が営まれている。

トレントを 3 本設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土である水田の床土の下には砂礫層が続き、遺構、遺物は検出されなかった。調査区北側には中世の水田跡や赤山社と旧諏訪神社を結ぶ参道が発見された仲田遺跡が隣接している。しかし、調査によれば遺跡の南側は東西に走る旧流路にあたり、遺構がまったく確認されていない。本試掘結果および位置関係から考えて、本調査区域もこの旧流路にあたると考えられる。



第 16 図 野牛島・石橋遺跡位置図

### 4. 櫻原・南原遺跡

調査地 八田村櫻原 496-11  
調査原因 個人住宅建設工事  
調査期間 平成 14 年 7 月 3 日  
対象面積 358 m<sup>2</sup>  
調査概要

調査区は御勅使川扇状地上に位置する。北 300 m の地点には 10 世紀前半の集落跡である櫻原・天神遺跡があり、西側約 730 m の地点には平安時代の集落百々遺跡が立地している。

トレントを 2 本設定し、重機で表土を掘削後、人力で精査する試掘調査を実施した。調査の結果、遺構、遺物とともに検出されなかった。



第 17 図 櫻原・南原遺跡位置図

## 5. 野牛島・大塚遺跡第2地点

調査地 八田村野牛島 2695-1他

調査原因 村道61号線改良工事

調査期間 平成14年10月21日～11月8日

対象面積 248 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査区は御動使川扇状地扇端部に位置し、東側には御動使川の伏流水が湧出して形成された能蔵池が近接している。調査区の西側には野牛島・大塚遺跡が隣接し、北西約150mの地点には石橋北屋敷遺跡が位置している。いずれの遺跡も中世と平安時代を中心とした遺跡である。

村道61号線改良工事に伴い試掘調査を実施した。工事区域にトレンチを設定し、重機で表土を掘削後、人力で精査し遺構を確認した。調査の結果、溝状遺構3条、土坑が多数検出された。

工事の期日が迫っていたため、試掘調査後、平成14年11月22日まで本格調査を実施した。調査の結果、複数の土坑から馬の歯や副葬された人骨および副葬された六文銭等を検出した。いずれも中世と推測される。また2条の溝状遺構は区画溝と考えられる。調査区を含めた能蔵池の北西部は「古屋敷」や「北屋敷」と呼ばれており、検出した遺構との関わりは今後の検討課題である。詳細な調査報告は、平成15年度中に刊行予定である。

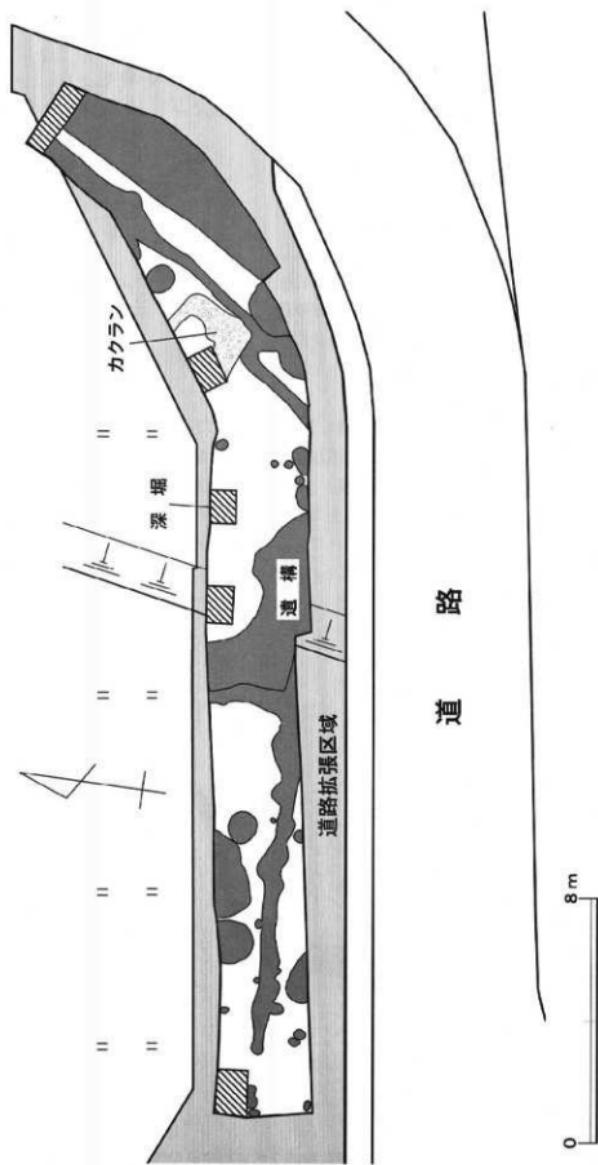


第18図 野牛島・大塚遺跡第2地点位置図



第19図 野牛島・大塚遺跡第2地点調査区位置図 (1/800)

第20図 野牛島・大塚遺跡第2地点全体図 (1/160)

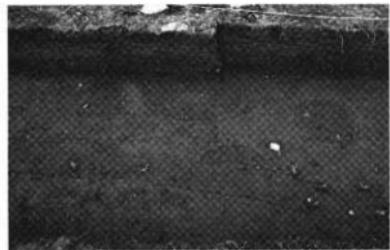




調査区全景（西から）



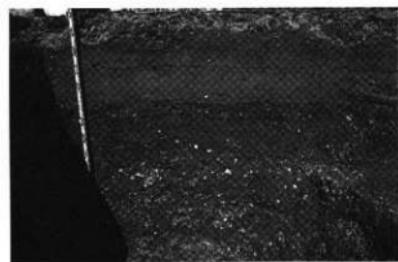
1号溝（東から）



1号溝・33・34号土坑他（南から）



2号土坑（南から）



深堀北壁セクション（南から）



石列（東から）

## 6. 六科・御崎遺跡

調査地 八田村六科 162

調査原因 携帯電話無線用鉄塔建設工事

調査期間 平成 15 年 1 月 30 日

対象面積 64 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇央部に位置する。東西約 2m、南北約 3.5m、深さ約 0.6 ~ 1.7 m のトレンチを設定した。第 1 層である耕作土の下には砂礫層の第 2 層が広がり、その下第 3 層にはシルト質の黄褐色土が堆積していた。この黄褐色土は、近隣の遺跡で遺構の基盤層いわゆる地山となっている層である可能性がある。しかし調査地点での第 3 層は起伏が激しく、遺構、遺物は確認できなかった。第 2 層の砂礫層に伴う水の影響を受けたものと推測される。第 3 層以下は砂礫層とシルトが堆積し、遺構、遺物ともに発見できなかった。



第 21 図 六科・御崎遺跡位置図

## 7. 舞台遺跡

調査地 八田村徳永 1956- 1

調査原因 埋蔵文化財確認調査

調査期間 平成 15 年 1 月 31 日 ~ 2 月 3 日

対象面積 506 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。遺跡は釜無川によって御勅使川扇状地が浸食され形成された崖上に広がっており、崖下との比高差は約 15 m にも及ぶ。

工事区域内に合計 3 本のトレンチを設定し、試掘調査を行った。

### 第 1 トレンチ

南北 3.8m、東西 1.6m、深さ約 0.5 ~ 1.4 m のトレンチを設定した。調査の結果、南北に走る溝状遺構を発見した。確認面での溝幅は約 1.4m を測る。遺構自体を発掘していないため深さは不明だが、深堀トレンチの南壁断面によれば、少なくとも確認面から 30cm 以上の深さをもつ。

### 第 2 トレンチ

南北 2m、東西 5.2m、深さ約 0.4 ~ 1.1m のトレンチを設定した。調査の結果、複数のピットを発見した。ピットから土師器と思われる土器の小片が数点出土した。

### 第 3 トレンチ

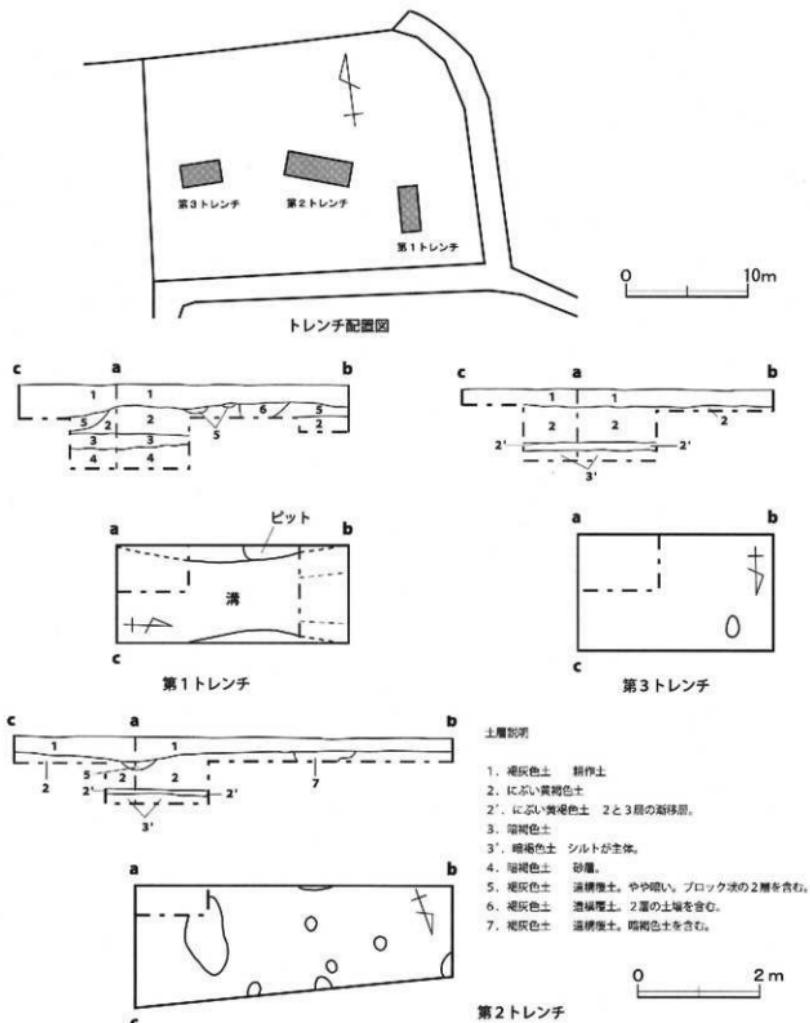
南北 1.9m、東西 3.2m、深さ約 0.3 ~ 1.2 m のトレンチを設定した。調査の結果、ピットを一基検出した。遺物は遺構確認時に土師器と思われる上器片を探取した。



第 22 図 舞台遺跡位置図

## まとめ

調査の結果、密度は低いが第1～3すべてのトレンチで遺構を確認した。確認面の深さは地表から約30cmの地点である。出土した遺物が少ないため、すべての遺構の時代を特定するのは困難であるが、出土した数点の土器片から考えると、検出した遺構は古代から中世のものであると推測される。



第23図 トレンチ配置図(1/400)および第1・2・3トレンチ平・断面図(1/80)

## 報告書妙録

ふりがな	へいせい 13・14 ねんどまいぞうぶんかざいしきつちょうさほうこくしょ
書名	平成 13・14 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	八田村文化財調査報告書
シリーズ番号	第6集
編著者名	斎藤秀樹
編著機関	八田村教育委員会
所在地	〒 400-0204 山梨県中巨摩郡八田村榎原 800
発行年月日	2003年2月28日

八田村文化財調査報告書 第6集

山梨県中巨摩郡八田村

### 平成 13・14 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2003年2月28日

編集／発行 八田村教育委員会

〒 400-0204 山梨県中巨摩郡八田村榎原 800

TEL 055-285-1883

FAX 055-285-0491

印刷所 有限会社タクト

〒 400-0204 山梨県韮崎市大草町下条中割 711-6

TEL 0551-22-9633

FAX 0551-22-9636

